

ABOUT

伝統は歴史ではない。 伝統の向こうへ、伝えるべき人へ。

Inspirationの語源はラテン語のspirare「呼吸する」、 つまり人間に欠かせない日々の営みを表しています。 伝統分野において、日々同じ営みを繰り返すことは、 決して良いことではありません。自ら新しい刺激をさがし、 1つのひらめき(inspiration)に安住する事なく研鑽を 積んで初めて、伝統は文化として生き続けます。

本プロジェクトでは、京都にある36組の伝統的分野の職人や作家が、現代建築やプロダクトを手掛けるデザイナー達と「新しい伝統工芸」として建築・インテリア品の開発を進めました。

伝統的な技術、素材、意匠に現代の生活様式という フィルターを通して、新しい可能性を探り続けます。 ここ京都には、伝統を超えた先に、創造の源が確かに 存在しています。 4

アミタ エムシーエフ株式会社 石彰 石川石材



株式会社伊と幸 絹ガラス KYO CRAFT IWATAHOURAIYA



木屋太 今河織物株式会社 KYOTO WALL ARTISTS



西陣岡本 岡本織物株式会社 京焼・清水焼 陶謙窯



BUNZABURO 木村染匠 株式会社



株式会社京瓦 京都桐箱工芸



ORIBEKKO 京洛工芸株式会社



株式会社 金箔押 山村 株式会社 弘誠堂



塩見団扇株式会社 晋六窯



0



大東寝具工業株式会社 株式会社竹定商店



株式会社 竹中建具店 株式会社龍村光峯



株式会社 寺島保太良商店 株式会社 東五六



とみや織物株式会社 鳥居 株式会社



竹又 中川竹材店 有限会社久山染工



有限会社フクオカ機業 藤彩芸



MAKINO URUSHI DESIGN 京からかみ 丸二



吉村 楽入 株式会社 和紙来歩



株式会社もりさん 岱﨑織物株式会社



B









1932年に創業した伝統工芸の京七宝、京象嵌製品製作を手がける金属工芸品メーカー。持続可能な心と行動を大切に、デザインから製作まで自社で一貫対応できる生産ラインを活用し、伝統工芸品の魅力を広く伝えている。新たな市場のインテリア製品を創りだし、歴史と技術のある七宝焼の価値を高めることを目指す。

京都市南区吉祥院新田下ノ向町1 アミタビル Tel 075-661-6001 Mail mcf@amitacorp.co.jp 自社工場での金属社章、バッジ製造の実績を活かし、インテリア商材として家具用のブランドプレート(銘板)をデザイン。プレートには伝統技術の七宝を用いたものだけでなく、コストを重視して七宝不使用のものも用意している。裏側にピンを立てて接着できるもの、表から左右にネジを打ち込んで取り付けられるもの、フラットな形状、曲げ加工を施したものなど、さまざまな家具に取り付けられるよう多彩なタイプを提案。

家具用七宝ブランドプレート ステンレス七宝ブラック仕上げ [サイズ:W63mm×H15mm×D2mm(ネジあり)] ステンレスゴールド鏡面仕上げ [サイズ:W55mm×H15mm×D8mm(ネジなし曲げ加工、背面ピンあり)]

RECEPTION







○ 石彰 石川石材

創業1921年(大正10年)より、京都西陣の地で機織りの音にコツコツと石のはつる音を共鳴させ、墓石・石灯籠・石彫刻などを手造りしてきた。初代から継承した技術だけでなく、新技術や感性も加えて、現在も作品を造り続ける。石は重くて硬く加工も難しい天然素材であるが、その独特の風合いや高級感を活かした新商材も開発。

京都市上京区寺之内通大宮東入妙蓮寺前町 362 Tel 075-431-3986 Mail info@kyoto-ishikawasekizai.jp 石が本来備えている重厚感や高級感に加え、デザイン性、アート性もプラスしたピクトサインプレート。職人による細やかな技術だけでなく、手仕事ならではの温もりも感じさせる。1パターンに凝り固まらず、用途によってアレンジできるのも、ひとつひとつ手仕事で作っているからこその大きなメリット。そうした魅力を活かしながら、ある程度のベースや統一性を持たせて制作の方向性を明確にしておくことで汎用性の高さも両立。

石材ピクトサインプレート トイレサイン 水磨き1000番仕上げ [サイズ:W350mm×H100mm×D40mm] 受付サイン 水磨き1000番仕上げ [サイズ:W250mm×H100mm×D50mm] 階数サイン 水磨き1000番仕上げ [サイズ:W190mm×H90mm×D50mm]







株式会社伊と幸 絹ガラス

1931年に和装白生地の伊と幸として創業。契約農家による繭生産から、社内図案家のデザイン、伝統の職人技を取り込んで製品化している。長年和装で培った感性と美意識を活かし、内装資材「絹ガラス」も展開。「衣」の絹文化を、現代の感性で「住」空間に活かし、暮らしと共にある絹の未来を創造する。

京都市中京区龍池町 448-2 伊と幸ビル Tel 075-254-5884 Mail contact@kimono-itoko.co.jp 有史以前より美しい天然繊維として大切にされてきた絹。光の陰影を強調する立体的な形状と絹本来の光沢感に着目し、まるで空間が着物を纏ったように魅せる立体シルクタイルが誕生した。縦横比1:2で構成されているので、縦横を組み合わせて並べることが可能であり、壁面に様々な着物の表情を演出できる。かまぼこ形、分銅形、草木染め、金彩で加工した生地など多彩なバリエーションを展開。繊細で精巧な絹織物に魅了されてほしい。

立体シルクタイル [サイズ:240mm×120mm]









KYO CRAFT IWATAHOURAIYA

1924年(大正13年)、初代の岩田新太郎が宮殿(屋根)師として京都の地に創業。現在は在家用の仏壇・寺院用仏具の製造販売をしている。新調はもとより修理修復も手掛けており、全国の寺院とも取引。伝統工芸の素晴らしさを身近に感じてもらうためだけでなく、職人の需要を守るために新事業にも力を入れている。

京都市西京区山田車塚町9-1 Tel 075-392-5077 Mail info@houraiya.jp 社寺建築に使用される伝統的な構造体、 計組。その機能性を活かしてフレームとフレームを繋ぐジョイントパーツとして使用している。ベース色の木地クリア仕上と、仏具由来の金箔や摺漆仕上を差し色に使い、様々な空間に合わせた形状を表現。一点もののアートワークではなく、 顧客のアイデアや想いも取り入れ形にできる。 仏具としての要素は残しつつも主張を抑えているため、あらゆるインテリアシーンにマッチ。

斗組ジョイント壁面アートパズル

木地にクリアワックス仕上、金箔仕上、摺漆仕上(黒、朱)[サイズ:小フレーム250mm×250mm、中フレーム400mm×400mm、大フレーム700mm×700mm]

これらのフレームを組み合わせて様々なサイズの形状に組み立てることができる。









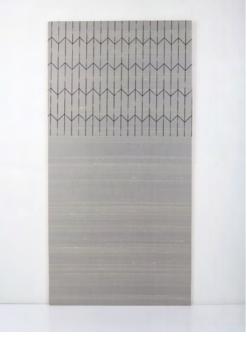
■ 木屋太 今河織物株式会社

1912年に西陣織の機屋として創業。現在は「ちょっとよそにないキモノ作り」をコンセプトとした「木屋太」のブランド名で着物や帯を製作している。得意としているのは、約40cmの幅の織物の生産。モダンかつデザイン性の高いテキスタイル、生地の風合いや発色で多くのファンから支持を集める。

京都市上京区東柳町 558 Tel 075-461-1212 Mail info@kiyata.jp 木屋太の西陣織の特徴であるモダンで前衛的な柄を活かした、現代の空間にも調和するソファタイプのスツール。着物屋に並んでいる反物の集積、この形状をクッションのモチーフとしている。台座部分は家具屋が作成したもの。奥行きは反物として取れる400mmとし、中央の座る部分に関して強度を出すためにも、実際の帯の生地を巻き込み配置。「着物に対して帯を巻く」というストーリーをクッション自体へ落とし込んだ。

西陣織のクッションソファ(スツール)







KYOTO WALL ARTISTS

百人一首「みかの原わきてながるる泉河いつみきとてか恋しかるらん」で知られる綿・スフ織物の産地、木津川市から最高級品質の壁紙を全国へ。天然素材であるリネン・シルク・レーヨンなどを使用した織物・和紙壁紙の加工メーカー。織物から染色・仕上まで一貫した生産設備を持っており、品質と生産性を兼ね備える。

木津川市加茂町兎並船屋 3 Tel 0774-76-2308 Mail erimo@skyblue.ocn.ne.jp 天然木の薄付きの素材を使用した壁紙と、従来主力商品に柄パターンをプリントした 壁紙を新たに開発。天然木使用の壁紙は市場での優位性が既に見込まれており、 プリントで表情を与えてバリエーションを増やしている。シルクシャンタンの壁紙も同様に、 既にあるラインアップに新たな表現を加えることで多彩なニーズに対応。住空間に ととまらず、さまざまな業種、業態の内装空間で仕様されることをイメージしている。

柄パターン入り天然木壁紙 [サイズ:W900mm] 柄パターン入りシルクシャンタン 壁紙 [サイズ:W900mm]

● 西陣岡本 岡本織物株式会社

100年以上、神社仏閣用に「金色に輝く、極楽を表す絹織物」を 織ってきた職人集団。その目標は、暮らしの中にきらりと光る一品 〈Golden Coloured Silk Fabric〉の力で、世界中の方々を満ち 足りた気持ちにすること。西陣織 高級金襴 各種製造販売卸 として、生活を彩る絹織物を世界中へ届けている。

京都市上京区小川通一条上ル革堂町576 Tel 070-6682-4650 Mail mail@okamotoorimono.com 高僧の袈裟などを手掛けてきた岡本織物が得意としているのは、絢爛豪華な西陣織。 その美しい生地にピクトグラムを織り込むことで、他に類のない上品で贅沢なパネルに 仕上がっている。派手であることも金襴の魅力ではあるが、使用空間での調和を考慮 して、あえて白生地を使用。存在感を抑えて汎用性を持たせることで、和空間にかたよる ことなく多彩なシーンで重宝する。六角形状であり、さまざまな組み方ができることも特徴。

西陣織へキサゴンビクトパネル [サイズ: $H180\,mm \times W156\,mm \times T20\,mm$ 程度] 柄・素材・仕様・サイズオーダー対応









● 京焼・清水焼 陶謙窯

京都ならではの多様性をもって発展してきた、永い歴史を持つ京焼・ 清水焼。その伝統に新風を吹き込む陶謙窯の【fuuu】ブランドは、 ろくろで挽いた手作りのぬくもりを大切に、人の手で作り出された器 だけがもつ心地よさ、やさしさ、そして愛着を日常の中に忍び込ませる。 京焼・清水焼の魅力をインテリアにも取り入れ、国内外に発信。

京都市山科区川田清水焼団地町6-2 コーポきよみず103 Tel 075-354-6000 Mail contact@fuuu-utsuwa.jp 【fuuu】ブランドの製品を、テーブルウェアだけではなくインテリア商材に広げるために開発されたタイル材。オリジナリティのある円形のフラットタイルであり、手づくりの跡をそのまま残すことで、ろくろ挽きによる器の魅力を活かしている。貫入のベンガラ色の仕上げとブルーの艶消し仕上げ、それぞれの独自の深みを引き立てるのが、表面の淵の全周に加えられた凹み。陰影が生まれることで、豊かな質感が見事に強調されている。

京焼・清水焼壁面アクセントタイル 貫入ベンガラ仕上げ、ツヤ消しブルー釉薬仕上げ [サイズ: ϕ 260mm、 ϕ 215mm、 ϕ 155mm、 ϕ 120mm(厚み10mm~15mm)]









BUNZABURO

絞り染めを専門とした片山文三郎商店は、1915年(大正4年) 京都 鳥丸で「京鹿の子絞り」の呉服製造業として創業。「纏う芸術」 Wearable Art をコンセプトに、絞り染めのダイナミックな意匠と造形 美を活かす。整然と続く凹凸による様式美は、MoMA(ニューヨーク 近代美術館)のカタログに掲載されるなど海外からの評価も高い。

京都市中京区蛸薬師通り烏丸西入ル橋弁慶町221 Tel 075-221-2666 Mail shibori@bunzaburo.com 被せるだけで手軽に模様替えができるインテリアが纏う服。凸凹とした独特な形状により、空間のイメージを一新させる。絞り生地には伸縮性があるため、照明器具、花器、椅子、ソファー、テーブルなど、さまざまなインテリアに対応。付属のゴムで部分的に縛ることで、ちょっとしたアレンジも可能となっている。日常空間に遊び心をくわえたり、パーティーで着飾ったり……絞りインテリアドレスでお洒落を楽しんでほしい。

絞りインテリアドレス 絞り生地 S、M、Lの3サイズ展開







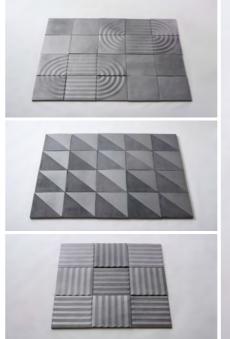


↑ 木村染匠 株式会社

1946年、手描き京友禅のキモノを創作するために創業。先人から 脈々と受け継がれてきた文様文化や染色技法を継承しながら、 時代に応じた感性も取り入れて伝統的なキモノづくりを磨いてきた。 「キモノ、着るものばかりでなく」をコンセプトに、染匠の感性・ノウ ハウを遺憾なく発揮し、さまざまなジャンルへの挑戦も続けている。

京都市中京区岩上通御池南入る上巴町424 Tel 075-823-7700 Mail info@kimurasenshow.co.jp 京友禅キモノのファブリックパネルと、季節を封入した合わせガラスの組み合わせからなる壁面アート。春は鮮やかな色彩で風に舞う桜を、夏は波で涼しげに、秋は紅葉の侘しさを、冬は白い雪で静けさを……。合わせガラスのレイヤーは、京友禅の描く世界と自分達がいる空間を繋げる役割も担う。15以上の工程を経てつくられている京友禅の繊細な技巧、伝統的なキモノづくりの染色、装飾技術を空間に取り入れ、四季の彩りを感じてほしい。

京友禅壁面アート ファブリックパネル [サイズ:300mm×300mm] 合わせガラス [サイズ:180mm×380mm]





● 株式会社京瓦 (浅田製瓦工場)

1911年(明治44年)初代徳三郎が創業し、翌々年に瓦製造業「浅田製瓦工場」を設立。2代目良治は「通商産業大臣賞」を受賞、3代目晶久はシルクスクリーン技法を京瓦に用いて特許を取得。その他にも3Dブリンター、酸化焼成、還元焼成も活用。瓦といえば屋根材と思われがちだが、昔から床材や壁面材としても用いられている。

京都市伏見区舞台町5

Tel 075-601-1506 Mail asada-m@kyogawara.jp

フロアタイルとしての機能性も有している京瓦。フラットな表面のものと三角形状に柄が入ったものをデザインし、その質感や色味の魅力を訴求している。表面の柄は使いやすさを重視したストライプ状と半円状。3次元的な構造となっており、組み合わせ次第で数多くのパターンを生み出すことができる。サイズは汎用性のある300mm角とし、壁面用に薄いタイプも用意。釉薬を使用せず焼成のみで製造するため環境に負担もかからない。

フロア月

#細いぶし仕上げ[サイズ:W300mm×D300mm×H27mm(突起除く)] 壁面用 無釉いぶし仕上げ[サイズ:W300mm×D300mm×H9mm又は15mm(突起除く)]





京都桐箱工芸

創業から140年余年、長年にわたり桐箱と茶道具の制作に専念してきた。指物師としての伝統的な技法に加え、蓄積された加工技術を巧みに用い、木材の魅力を最大限に引き出す。その蓄積された経験と培われた技術により、近年では生活道具など時代に沿った制作バリエーションを展開。生活を豊かにする作品を生み出している。

京都市山科区西野山欠ノ上町 45-12 Tel 075-592-6963 Mail info@kyoto-kiri.com 懐石やお茶席で使われる八寸盆のディティールを生かした建材。主に八寸盆の意匠として手作業で一本一本刻まれるストライプの凹凸「へぎめ」に着目し、木製のパネルに活用している。カンナを使用した「へぎめ」は熟達した職人の成せる技であり、希少性が高く、什器の扉などにアクセントとして使用することで空間に新たな価値を与えることができる。カラーは2パターン用意されており、和洋とちらの空間にもなじむ。

木製パネル[サイズ:要望に合わせて制作可能 カラー:ナチュラル、墨]







1941年に"かんざし"や"帯留"を鼈甲で制作し販売を開始。60年以上前から樹脂加工、木工加工、看板サインという3つの専門技術を備えている。その高い技術を活かして店舗で使われる商品陳列棚、アクリルケース、屋外大型看板、屋内案内サインのほか、ホテルのカウンターやルームナンバープレート、家具などの制作も手掛けてきた。

京都市下京区西七条名倉町29 Tel 075-312-3741 Mail k14@oregano.ocn.ne.jp 和紙や織物を封入したアクリルの板材に曲げ加工を加える、独自の技術を活かしてランプシェードを開発。和紙などが封入されたアクリル材は光を美しく透過する性質があり、大きめの素材を緩やかな曲面にしてシェードにすることで、その特徴を際立たせている。 光源部分については、単なる球体がシェード部分に接しているかのように見える構成にデザイン。無駄な要素をそぎ落とすことで、ペンダントランプとしての完成度を高めている。

ペンダントランプ (和紙封入アクリル材曲げ加工シェード) [素材:アクリルシェード和紙オーラ / シルバー、グリスン / レッド サイズ: ϕ 500mm (高さ125mm 程度)]



京洛工芸株式会社

1995年創業、漆芸・木象嵌・螺鈿象嵌・金糸、金箔・銀糸、銀箔・ 蒔絵など、西陣織の技術を用いた高級家具・店舗什器・建築内装 材・記念品等を製造している。すべてが別注品であり、他社が真似 の出来ないオンリーワンの技術。京都迎賓館、寺社、一流ホテル・ 一流旅館、有名料亭、有名ブランド店舗、高級邸宅など実績も豊富。

京都市西京区御陵大枝山町1-12-4 Tel 075-332-8245 Mail kyorakukogei@mtf.biglobe.ne.jp 京洛工芸社によるUV塗装の高い技術があればこそ実現した透明感。半透明の強化 ガラスやアクリルパネルの表面は、グラデーション塗装技法だけでなく京洛工芸独自の 金銀糸と蒔絵風印刷技術も活用しており、まるで空中に浮かんでいるように美しい。建材 として高級感のある場所だけでなく、現代的なインテリア空間にも調和するほか、アート ワークやプロダクトといった、さまざまなシーンの要望にも対応できる素材となっている。

UV 塗装装飾パネル 要望に合わせ幅広い特注、サイズ対応が可能





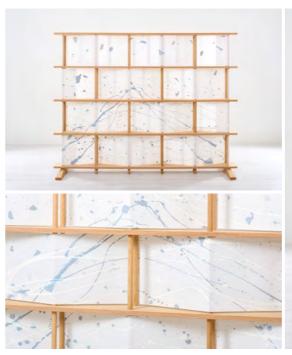


● 株式会社 金箔押 山村

1949年(昭和24年)創業。京都の伝統産業である京仏具・京仏壇の金箔押し業を営む。全国の寺社仏閣、文化財などの金箔修復・新調が主な仕事内容。金箔を貼る際に漆を使用するのが京都の金箔押しの特徴であり、この伝承されてきた技術を用いて、インテリア、内装建築といった新しい分野にもチャレンジし続けている。

京都市山科区西野山欠ノ上町1-34 Tel 075-583-5153 Mail yamamura@goldream.info 一般的に有名な金箔だけでなく、汚し加工を施したエイジング箔、金よりも希少なプラチナ箔という、3種類の技術を活かしたディスプレイやピクトグラムをデザイン。鉄や銅板などの素材では加工、表現が難しい場合でも、箔を使用することで貼り付け加工が可能なものが多々あり、そうした異素材との組み合わせ、加工を行うことで、柔らかさと硬さを同時に表現するといった箔ならではの面白みを追求している。

エイジング箔ピクトグラム [素材:プラチナ箔、異形木 サイズ:異形の為寸法無し] 箔押し木表札 [素材:プラチナエイジング箔、木 サイズ:W300mm×H178mm] 箔+黒楽ディスプレイパネル [素材:金箔エイジング、楽焼、木 サイズ:W124mm×H300mm]





● 株式会社 弘誠堂

初代武夫が文化財修復の経験を活かし、1953年京都市中京区にて独立創業。現在は2代目善茂と3代目健太郎が活躍しており、お寺の仏画など100年後の表具師へのバトンを渡す仕事を心掛けている。掛け軸、屏風、襖絵、額、衝立、巻物、画帖など古美術修復から新調までを行うほか、表具技術を駆使したインテリア商材も手掛けて国内外に発信中。

京都市中京区聚楽廻中町 27-12 Tel 075-811-3394 Mail kouseido.ltd@gmail.com 障子という日本の伝統的な建具と同じような表現を、現在の商業の空間に落とし込むことはできないか。そんな発想から多彩なシーンに対応するパーティションをデザイン。上段は焼き泊を使ったテラゾーのような表現、下段は山を連想させる抽象的な模様を施している。空間と空間を隔てながら、光は透過して和らげ、賑やかさも醸し出す。平面的な和の構成ではなく、面を斜めにすることで光の透過の雰囲気を変えており、和洋とちらの要素にも馴染む。

11

表具 和紙 パーティション アートワーク [素材:表具、和紙]



塩見団扇株式会社

「都うちわ」とも呼ばれる伝統工芸品、京うちわを1944年から制作。 常に時代の新しいものを求めつつ伝統の技術も守り「品質」と 「デザイン」にこだわることで、受け継がれてきた伝統と想いを後世に 残す。近年の材料の入手困難や職人の減少により内製化を進め、 独自のうちわを開発しながらインテリア商材の開発にも注力する。

京都市山科区小野西浦 24-3 Tel 075-571-7515 Mail shiomi@kyoto-fan.co.jp 細い骨を放射状に並べて作られた京うちわ、その美しい構造を活かした壁面装飾。「泡」と「花びら」をモチーフにして、大小4サイズの京うちわを組み合わせている。「泡」タイプは緩やかにグラデーションの入った和紙に水玉模様の透かしを入れており、水中にいるような涼しげな印象。「花びら」は大小4枚を放射状に並べ、情熱的で美しい花を表現している。仰ぐうちわから飾るうちわへ、インテリアの世界で新たな可能性を拓く。

団扇アートパネル [素材:和紙、竹、杉]

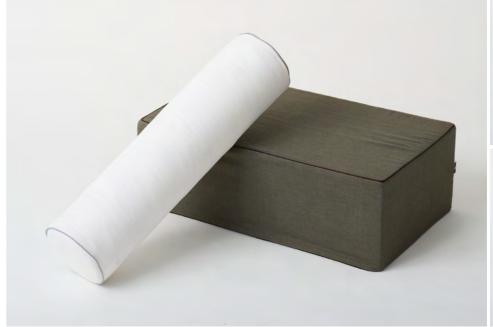


晋六窯

京都で3代続く窯元であり、そのオリジナリティは創業者辻晋六が 開発した釉薬とデザインによるもの。日々の暮らしにそっと寄り添い、 代々受け継がれていく器を製作。お茶を美味しく最後の一滴まで注ぎ 切れるように考えられたペリカン急須などは半世紀以上も人気を集め 続ける。日用食器だけでなく住空間においても陶器の魅力を提案。

京都市左京区岩倉幡枝町 322 Tel 075-721-3770 Mail kyoto@shinroku.com ミニマムなデザイン形状でありながら、和柄を調和させるお椀型のブラケットライト兼 アートワーク。間接照明式の電球による光のグラデーションが、釉薬の煌めきや凹凸への 陰影を生む。釉薬の柄をしっかりと出したブルー、釉薬の柄をほのかに出したブラウン、 かすかな光を生む鉄粉を使用したブラック、色の美しさを生かしたライトブルーグリーン。 1つのプロダクトでありつつ、配置次第で多彩なアクセントを空間に与えることができる。

清水焼 プラケットライト 兼 アートワーク E26 電球タイプ [サイズ: ϕ 170mm] 焼き物だけのタイプ [サイズ: ϕ 130mm] E17 電球タイプ [サイズ: ϕ 150mm] 焼き物だけのタイプ [サイズ: ϕ 120mm]





○ 大東寝具工業株式会社

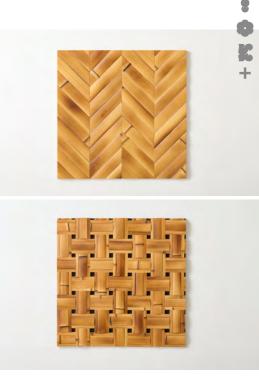
大東寝具工業は1925年に京都市下京区壬生で創業。100年近く 寝具の製造と販売を生業としてきた。現在のミッションとは「快眠と くつろぎで世界を元気にする」。ものづくり技術と睡眠の知識を掛け 合わせ、オリジナルの寝具、ホームファッション、ホームテキスタイル・ アイテムを通し、睡眠環境を改善するサポートを行う。

京都市伏見区横大路下三栖山殿 66-2 Tel 075-622-6245 Mail info@daitoushingu.com 立ち仕事や座り仕事をしている30代~50代の女性に向けたストレッチクッション。 『ねむりとくつろぎで健康に』の理念をもと、ただ座るだけではなく、おやすみ前の儀式 として使用できる入眠ストレッチクッションを提案している。ピラティストレーナー杉直樹氏 監修の元、クッションのサイズを調整、寝ながらできる簡単なエクササイズプログラムも 開発。緊張をほぐすことで睡眠の質を改善して、寝ながら体をメンテナンスできる。

おやすみ前の入眠ストレッチクッション







13

林式会社竹定商店

1877年、京都太秦にてに創業した竹定商店。竹の育成・伐採から竹製品への加工まで一貫して手がけることを強みとした職人集団である。2015年より内装業界に参入し、特注を中心に多くの案件に携わってきた。近年は「MICHIKUプロジェクト」を立ち上げ、主にデザイン面での新たな可能性を探求している。

京都市右京区太秦桂木町6 Tel 075-861-1712 Mail info@takesada-shoten.co.jp 見る角度や照明の効果より、グラデーションのように陰影が浮き上がり、表情が変化する 極細平割竹壁面装飾パネル。バーナー焼入れの技法と牧野漆工芸の漆により、傷を隠し ながら美しい幾何学的模様を繰り返すよう配置した壁面装飾パネル。それぞれの表現手段で、 本来は捨てられるはずの極細平割竹、傷などの特徴を生かした創造的再利用をデザイン。 廃材竹という資源を循環させ多様な空間を演出するという、新たな価値を生み出している。

グラデーション竹パネル [素材:白竹 サイズ:900mm×450mm] 矢印調竹パネル [素材:焼白竹 サイズ:900mm×900mm] 織物調竹パネル [素材:白竹 サイズ:900mm×900mm]



林式会社 竹中建具店

1971年、竹中建具店として嵯峨野で事業を開始。その後、現在の所在地である桂に移転して約50年、地元に密着しながら木製建具・木製家具を製作してきた。2014年に法人化して㈱竹中建具店となる。木製建具や木製製品の魅力を、物、場所、シーンにマッチングさせ、求められるものが変化していくなかで多用な提案を行う。

京都市西京区下津林芝ノ宮町1 Tel 075-381-9030 Mail 410tateguya-takenaka@mbox.kyoto-inet.or.jp 縦枠にスリットを入れることで、京都らしい繊細な印象を与えることを意図した框組意匠の建具。その意匠をベースに、取手は京銘竹を使ったハンドル、ガラスは金糸布をサンドした絹硝子、腰パネルには京唐紙を貼るなど、他事業者の素材を使用することで他に類のない京都ならではの建具としている。和風の設えだけでなく、モダンな空間、現代的な内装デザインにも調和。さりげない存在感によって、より洗練された雰囲気を醸成する。

京建具[サイズ:DW800mm×H2250mm両開き(オートクローザー付き)]柄・素材・仕様・サイズオーダー対応

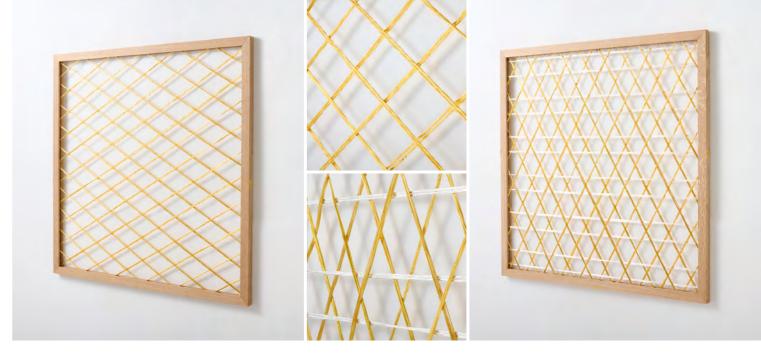


株式会社龍村光峯

"美しいモノ"の代名詞「錦」。初代龍村平蔵(号・光波)、2代龍村平蔵(号・光翔)、織物美術家龍村光峯、錦織作家龍村周と、4代に渡り継承してきた伝統織物の技術により、その錦の美を目指し超えるべく、織物のものづくりをする工房。伝統織物技術を繋ぐため、可能性あるアイデアにもチャレンジし続けている。

京都市北区紫竹下ノ岸町25 Tel 075-492-7275 Mail info@koho-nishiki.com 高級美術織物である龍村光峯の錦織をインテリアファブリックに転用するため、高精細スキャンとデジタルプリントの技術を用いて低コストで使い易い生地を製作している。インテリアに転用しやすい現代的なパターンとして選ばれたのは、正倉院北倉にある著名な七条織成樹皮色袈裟に風合いを似せ、多彩な色糸を取った織物「彩華織成錦」。柄のスケールを拡大したものをポリエステル生地にデジタルプリントして錦織を再現している。

錦織デジタルプリント生地 [素材:ポリエステル生地 サイズ:W700mm]



■ 株式会社 寺島保太良商店

元々は皇族や貴族の衣装に用いられ、明治時代より庶民にも広まり、 現在は西陣織や力士の化粧まわし、祭礼の刺繍幕などに使用される 金銀糸。その作り手として1897年(明治30年)に創業し、約120年 もの間「地域文化やお客様の『宝ものづくり』のお手伝いさせて いただく」という思いを大切に、金銀の輝きを「いとのかたち」にしてきた。

京都市北区紫野西泉堂町65-2 Tel 075-495-7111 Mail info@terayasu.com 木のフレームをベースに、さまざまな種類の金銀系を格子状に張り込んだパネル。リッチでありながら上品な雰囲気を醸し出しており、まったく新しい格子パネルとして空間を仕切る。和の意匠を金銀糸で張り込んだパネルは汎用性の高さも魅力であり、間仕切りや欄間といった多彩なシーンでの使用を想定。市場において一般的に普及している組子パネルとは一線を画す商材として、国内外で広く活用されることを期待している。

金銀糸格子パネル [サイズ:900mm×900mm×T25mm] 柄・素材・サイズオーダー対応





● 株式会社 東五六

1992年創業。東山区・清水寺のそばにて小売店を営む。「伝統とモダンとの調和」をコンセプトに京焼・清水焼の窯元のものから、人間国宝や文化勲章受章者の作品等を幅広く展示。2017年より法人向け事業を開始。さまざまなパートナーと共に、京焼・清水焼という素材を通じた新たな価値創造・可能性の探求を続ける。

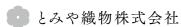
京都市東山区五条橋東 6-539-30 Tel 075-561-0056 Mail info@tohgoro.co.jp さまざまな作家と協業した多岐にわたる陶器の表情を活かし、特徴的なタイルをデザイン。 タイル単体のコストは一般商品よりも高くなることが予測されるため、全てを敷き詰める のではなく、余白を産み出すことで成立する意匠としている。一般タイルメーカーにない 陶器製のタイルというだけでなく、組合せ貼りによるパターン違いの多彩な表現も想定。 貼り方によって生み出される豊かな表情は、あらゆる空間のアクセントとなるだろう。

15

組合せ貼り陶器タイル [サイズ:100mm×30mm×T20mm] ※試作段階



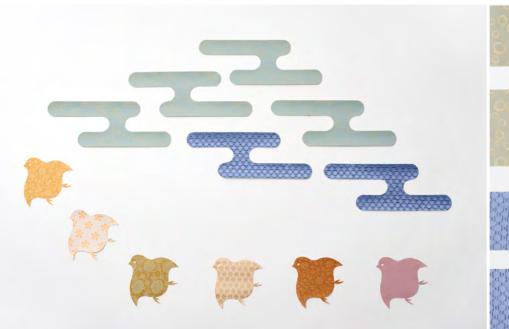




とみや織物の名は、西陣の織物問屋として1868年(明治初年)頃の「千両ヶ辻」に確認できる。戦前に織物業に業態転換し、主に帯地製造業として今日に至る。「京の老舗」「京都市オスカー認定」「京都府中小企業技術大賞」などを受賞。写真や絵画のように超高精細度な織物を製織する技術を転用し、インテリア事業にも挑戦する。

京都市上京区一観音町 428 Tel 075-463-1234 Mail info@tomiya.biz 特徴的な柄がさまざまな糸で構成されている西陣織。織り糸の美しさと繊細さに着目し、シンプルな織りの技術と糸の色を活かして素材の良さを引き出した。素材を最も直に感じられるのがアートパネル。設置場所によって陰影も異なり、さまざまな表情を楽しむことができる。ピクトパネルは木板に文字を挟み込み、さりげなく西陣織の雰囲気を表現。色鮮やかな糸をあえて控えめに見せ「何が書かれているのか」と興味を引くことが狙い。

西陣織アートパネル [サイズ: W840mm×H540mm] 西陣織ピクトパネル [サイズ: W90mm×H200mm +25mm]





● 鳥居 株式会社

1872年(明治5年)に京都御所南にて神仏金襴法衣商を創業。 1912年(明治45年)に表装用金襴緞子の卸売業を始める。表具 (掛軸)を飾る美術織物、いわゆる「表装裂」を専門に扱い、全国の 表具店や額装メーカーに納め、現在に至る。表装裂を掛軸だけでなく オブジェや壁面のポイントにするなど、今までにない活用法も提案。

京都市中京区夷川通堺町東入絹屋町128 Tel 075-222-1031 Mail info@torii.kyoto.jp 西陣織の生地に裏打ち施した壁紙ステッカー。形状は組み合わせて使用することも 想定し、雲や千鳥といった和のデザインをモチーフとしている。和を感じさせながら可愛 らしさもあり、商業空間のみならずホームユースなどにもフィット。防火性能などの観点から 西陣織を一般的な壁紙として使用するのは難しいが、壁のアクセントとしてのボーダー クロスであれば制約がないため、さまざまな空間に調和するボーダータイプも用意している。

表装裂 壁紙ステッカー 雲型[サイズ:250mm×120mm] 千鳥型[サイズ:120mm×120mm] ボーダータイプ[サイズ:W90mm]





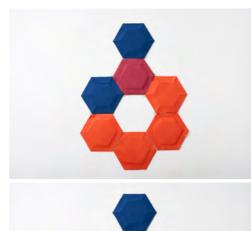


● 竹又 中川竹材店

1688年(元禄元年)の創業以来、京都にて代々竹工芸を制作。 300年以上に渡り培われた伝統の技術を大切に、竹垣、建築材料、 竹工芸製品など、常に時代のニーズにフィットするモノづくりを 心掛けてきた。日本の気候風土と調和するサステナブルな素材、 竹の特性を活かして、サステナブルデザインなものづくりを目指す。

京都市中京区御幸町通二条上る達磨町610 Tel 075-231-3968 Mail shop@takemata.jp 金銀糸と組合せた新しい表現の格子パネル。異素材とコラボレーションすることで、既に国内外から高い評価を得ている竹格子パネルシリーズのバリエーションを拡充する。また、新たな試みとして京都産の良質な竹を加工した「京銘竹」によるドアハンドルも オース・ダケー 開発。節間が亀甲状になっている亀甲竹、表皮に黒色の斑紋が入った胡麻竹の2種類を使用して、和洋問わず空間に調和するようにデザインされている。

竹格子パネル [サイズ:900mm×900mm×T25mm] 柄・素材・サイズオーダー対応 京銘竹ドアハンドル [サイズ:長さ450mm] 素材・仕様・サイズオーダー対応







● 有限会社久山染工

現取締役会長久山徹が1989年(平成元年)に創業。日本古来より伝わる友禅染めの流れを受け継ぎ、京都の地で独自の形で進化を遂げたハンドスクリーンプリントの技術を、和装ではなく、洋服用の生地に用いることを生業としてきた。現在はインテリアや雑貨、スカーフといった既製品のOEMなども行う。

京都市伏見区久我西出町10-91 Tel 075-932-1969 Mail hisayamasenkou@royal.ocn.ne.jp 美しく染め上げられた久山染工の布を活かすため、素材の魅力そのままに仕立てた 六角型のパーツ。こちらを締結金物で繋ぐことで、さまざまな空間を分割するディバイダー となる。それぞれのパーツに立体感を持たせることで、染生地ならではの表情を強調。 色や柄が異なるパーツを自由に組み合わせることができるため、間仕切りとしてだけで なく、設置した空間にオリジナティのある彩りを加えるなど、さまざまな表現に活用できる。

布製パーツ式空間ディバイダー [サイズ:300mm×260mm×T30mm程度]

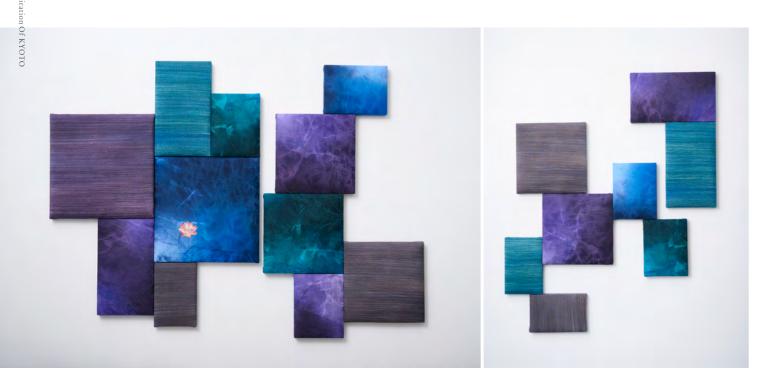


有限会社フクオカ機業

1902年(明治35年)京都西陣にて創業。さまざまな繊維を用いた 織物の開発・製造を行ってきた。その技術を活かして開発された カーボンファイバー織物「NISHIJIN CARBON」は、自動車や スポーツ業界などからも注目を集めている。近年は再生ペットボトル 繊維織物「Reperic」を展開し、インテリア商材への転用にも挑戦。

京都市上京区浄福寺通五辻東入一色町 35-7 Tel 075-441-0235 Mail info@fukuoka-k.co.jp リサイクルペットボトル繊維織物を使用した壁紙。西陣織のイメージを一新するモダンでジオメトリック、かつ使いやすい、ドット、タイル、グラデーションの3つのグラフィックパターンを用意している。西陣織において伝統的に使用されてきた市松や亀甲などの伝統和柄に代わる、新たなスタンダード柄として波及させるのが狙い。使用する糸の本数を減らして軽量化を図ることで、壁紙としての機能性も高めている。

西陣織ウォールペーパー リサイクルポリエステル織物壁紙 [サイズ:W1000mm (W1500mmも可能)]



藤彩芸

着物のメンテナンスを総合的に行う悉替として、1981年に設立。 次第に自社工場ができ、職人が増えるなど、事業規模を拡大して きた。若狭塗り蒔絵螺鈿の美しさに触発され、螺鈿加工を着物に 取り込む独自の技術を開発。伝統的な和装以外にも、螺鈿加工 の技術を活かしたさまざまな作品を制作している。

京都市左京区一乗寺塚本町64 Tel 075-721-9625 Mail urosuyataoo@gmail.com 染め物や螺鈿加工の高い技術をダイレクトに活かしたアートパネル。日本の伝統技術 に興味を持っている方はもちろん、若者や外国人といった和装に触れる機会が少ない 層にも向けて、藤彩芸による美しい反物の魅力を伝えることが狙い。長い歴史のなか で洗練されてきた日本ならではの技術の素晴らしさと、その伝統を守りながら新しいこと にチャンレンジしている企業の想いを、アートパネルに込めて国内外に発信していく。

染め加工 + 螺鈿アートパネル つかみ絞り染め + 螺鈿加工 ぜんまい紬













MAKINO URUSHI DESIGN

1928年、牧野新吉が輪島塗の見習いとして塗師を志す。輪島で修行を積んだ後、京都に移り京仏具京仏壇の塗師となる。1955年と1986年、2度に渡り金閣寺修復を手掛けたほか、京都のみならず全国の寺社仏閣の修復などに携わる。ハイエンド・インテリア家具などの制作にも着手し、2021年には MAKINO URUSHI DESIGNを設立。

字治市大久保町旦椋130-18 Tel 0774-44-9315 Mail info@makino-urushi.com 漆塗り本来の価値、空間装飾の本質は変えず、海外のインテリアや現代空間に使いやすいよう開発された装飾工芸建材。その伝統的な漆塗りの技術と、新しい美意識を融合させた 建材の魅力を伝えるため、竹定商店とのコラボレーションした漆竹幾何学模様パネルを はじめ、装飾額縁や漆ドアをデザインしている。平面的な部品だけでなく、曲面や凹凸の ディテール部分まで綺麗に仕上げることができる、漆装飾の高度な技術を伝えることが狙い。

漆装飾工芸

額線 『サイズ: W297mm×H420mm 漆:変わり塗りCO-13 (漆、真鍮、炭粉)] 漆竹幾何学模様パネル [サイズ:900mm×900mm 漆:CL-1、廃材再利用平割竹] 漆装飾ドア [サイズ:W690mm×H1990mm 漆:CL-1、E-12クラック(漆、卵白)]











19

□ 京からかみ 丸二

1902年(明治35年) 西村高禄堂の屋号で表具師として創業。 全盛期は職人を10名程抱え、画家の表装や寺社の表具などを請け 負った。戦後、職人不足や復興需要を考えて内装材料商へ事業 転換し、前身の丸二商店が誕生。現在は内装材料卸を軸に、 京からかみ製造、寺社表具修復の三本柱で事業を展開している。

京都市下京区高辻通堺町東入泉正寺町462番地 Tel 075-361-1321 Mail karakami@maruni-kyoto.co.jp 時代背景や身の周りにあるもの、流行りのデザインがモチーフとなってきた唐紙の文様。その文化の蓄積に敬意を払いつつ、Neo Karakami シリーズでは現代のライフスタイルや文化を取り入れた。京からかみの伝統的な木版手摺りの技法を活かしているため、一点一点手作業で丁寧に擦られた味わいも感じることができる。これからの空間を彩る新しい唐紙文様として、和テイストのみならず、あらゆるインテリア空間への採用を目指す。

Neo Karakami シリーズ































株式会社もりさん

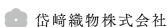
創業1921年(大正10年)、主に雛人形や御守生地に使用されて いる西陣織の「金襴」という紋様織物を織る。歴史ある西陣織金 欄の織元として反物販売を行うほか、オリジナルの色柄織物も製織。 美しい日本文化を継承するため、さまざまな分野に挑戦しており、 日常生活で日々触れ合うような西陣織のインテリア商材も開発する。

京都市上京区中立壳通千本東入加賀屋町402 Tel 075-432-1205 Mail info@mori-san.com

和モダンのイメージを保ちつつ、今までにないデザインを取り入れた西陣織壁紙を想定した デザイン開発。プリントでは表現できない織の魅力を引き出しつつ、シリーズ化を想定した 汎用性のあるパターン、配色を追求している。西陣織の高級・高品質なブランドイメージは そのままに、ポリエステルを使うことで素材としての耐久性、実用性にも配慮。さまざまな空間 になじませることができるだけでなく、アクセントクロスとして空間の印象を変えることもできる。

西陣織壁紙





1925年(大正14年)より西陣織の織屋として創業。主に西陣織の 中でも薄い織物である表装裂地を製造する。現在は表装裂地だ けに拘らず、伝統を守りつつも新たな用途の織物に挑戦。これまで に培われた西陣織の技術を、現代のニーズに合った商品に転換 させることで、新しい販路、継続的な受注の確保を目指している。

京都市上京区上立売大宮西入硯屋町284 Tel 075-414-0620 Mail info@daiyama.co.jp

張り合わせることで主役の絵を引き立てるなど、掛け軸の格を高めることに使用されてきた 表装裂地。照明器具のシェードにすることで、シルクで織られた凹凸や細かな色の違い を見事に活かしている。ホテルでの使用を想定しており、アイボリーやチャコールなど、 さまざまなシーンになじみの良い色をラインナップ。その上質さから存在感はありながら、 そもそもが掛け軸を引き立てる表装裂地だけあって空間全体の引き立て役にもなる。

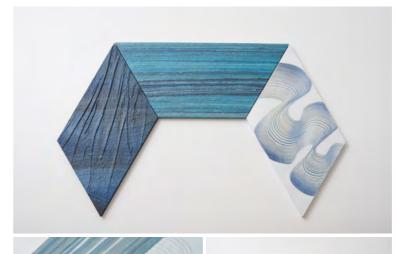
西陣織照明

吉村 楽入

約100年前より、京焼・清水焼の中でも特殊な楽焼を専門として きた。楽焼を得意とする工房は全国に10軒足らずと非常に貴重 な存在である。当代、3代目の吉村楽入は茶陶の作家活動を行う ほか、工房では抹茶碗の他、置物・箸置きなど、楽焼の特性を 生かした美術的感性の高い実用品も製作している。

京都市南区東九条明田町1 Tel 075-691-7919 Mail rakunyu@nike.eonet.ne.jp 約400年前、千利休の時代から茶道で重宝されてきた黒楽茶碗や赤楽茶碗の伝統を 守りつつ、革新的な日用食器、タイルなども提案している吉村楽入。その一点一点の表情が 異なる楽焼の特性、柔らかさ、独特の風合いを活かしたのがピクトグラムの案内表示で ある。ホテル、商業施設、店舗などの各所に掲げることで、単なる案内の文言だけにとどまら ないメッセージ性を付加。職人による手仕事の力強さや優しさまで国内外に伝え広める。

黒楽ピクトグラム [素材:黒楽 サイズ: W70mm×H70mm、W130mm×H130mm、W60mm×H180mm] 貫入ピクトグラム [素材:白楽(貫入) サイズ: W70mm×H70mm、W130mm×H130mm] 貫入ピクトグラム(極厚) [素材:白楽(貫入) サイズ: W70mm×H70mm、W50mm×H150mm]







株式会社 和紙来歩

創業約100年の株式会社加徳の子会社として2007年設立。 「日本の美は、しとやかに美しい」をコンセプトに、和紙のある豊かな 生活を提案。全国各地の和紙を取り扱い空間のプロデュースを行う。 手仕事の職人技が生み出す和紙の品質・風合いを大切にしながら、 日本の美を世界に伝えることで伝統の継承に貢献していく。

京都市南区上鳥羽角田町52 Tel 075-681-9123 Mail info@washilife.com 藍色で統一された3種の表現、表情を持つ和紙ARTパネル。平行四辺形や台形 といった特徴のある形状を組み合わせることで多彩な設置ができる。組み合わせ方次第 で存在感は増し、あらゆる空間で主役となり得る。さまざまな種類の和紙を取り揃え、それ ぞれの表現を活かすことを得意とする、和紙来歩ならではの特性を活かしたプロダクト。 「日本の美は、しとやかに美しい」という想いを、全世界に向けて発信するのが狙いである。

組替え和紙 ART パネル パネル A,B [サイズ: 600mm×300mm×T30mm程度] パネルC [サイズ:693mm×300mm×T30mm] 柄・素材・サイズオーダー対応

主催

京都中央信用金庫

連絡先

IOK+事業運営事務局

京都アンプリチュード株式会社内 〒604-0053 京都市中京区御池通堀川東入森ノ木町208番地の2

075-286-8815

info@amp-kyoto.co.jp

